

木更津駐屯地における陸自オスプレイの暫定配備について

1 経緯について

防衛省は、中国軍の海洋活動の拡大化に対処する一環として、佐賀空港に陸上自衛隊V-22オスプレイ（以下「陸自オスプレイ」という。）を配備することとし、平成30年8月に佐賀県が受入表明をしたところ。同空港への配備の進捗状況や中国軍の動向を踏まえ、令和元年5月に防衛副大臣から、木更津駐屯地における陸自オスプレイを暫定的に配備する計画についての説明があった。市では同年6月から8月にかけて、計15回の住民説明会を実施したうえで、12月に市長が防衛大臣を訪問し、以下の4点について確認したうえで、同計画に協力する決断をした。

- ① 5年以内を目標とする陸自オスプレイの暫定的な配備の期間について
- ② 安全対策及び潮干狩り等への配慮
- ③ 協議体制の構築
- ④ 情報の適切な提供

また、令和2年2月14日付けで、上記4点についての合意書を防衛省と取り交わした。

2 配備状況について

陸自オスプレイは、最終的に17機配備することとなっており、このうち最初の2機については、令和2年7月に、また3機目から7機目については、令和3年2月から5月にかけて、木更津駐屯地に輸送された。8機目以降の輸送スケジュールについては、現時点で確定していない。木更津駐屯地における暫定配備期間は、令和7年7月9日までであり、残りの暫定配備期間は約4年となっている。

表2 陸自オスプレイの配備状況（令和3年7月13日現在）

	岩国到着	木更津到着	現状
1機目	R2. 5. 8	R2. 7. 10	R2. 11. 10 にホバリングを実施したところ警告表示あり。潤滑油の汚濁が原因。再点検及び定期点検の後、R3. 6. 3 以降飛行再開。
2機目		R2. 7. 16	R2. 11. 19 ホバリング。R2. 11. 20 場外飛行を実施。R3. 3. 8 以降、機能確認試験と併行し教育訓練を開始。
3機目	R3. 2. 14	R3. 2. 24	受入点検中
4機目		R3. 3. 23	受入点検中
5機目		R3. 4. 6	受入点検中
6機目		R3. 4. 16	受入点検中
7機目		R3. 5. 7	受入点検中
8機目以降	—	—	米国において製造中

3 陸自オスプレイの運用について

現在、木更津駐屯地に暫定配備されている陸自オスプレイ 7 機のうち 2 機が、離着陸訓練やホバリング訓練などの教育訓練を実施しており、これまでは、木更津駐屯地、同場周経路、同周辺空域及び洋上の飛行を行っていたが、今後、要員の教育訓練等のため、順次、他の陸・海・空の飛行場等（※当面の飛来先としては、館山基地、百里基地、東富士演習場）への飛行を行うとの防衛省からの説明があった。

なお、陸自オスプレイをはじめ木更津駐屯地所属機の夜間飛行情報については、月末に翌月の夜間飛行情報を木更津駐屯地ホームページで確認することができる。